

1 研究テーマ

主体的に文章を読もうとする児童の育成
～物語文における学習指導と支援の工夫～

2 はじめに

これまで、自分自身が行ってきた国語科の学習指導は、内容を読み取ることが中心の学習だった。学習後、教材文を読んで児童に達成感があったが、日常の読書・新しい教材文に出会ったときに学んだことをいかに学び方や読み方を学ばせることはできていなかった。

児童が新しい文章を読むときに、学習した学び方・読み方を使って自分で考え、それを伝え合うことができるようにするための学習について考えた。

3 研究目的

学習過程の明確化と言語活動の充実(活性化)について考え、検証する。

つけたい基礎的・基本的な知識及び技能を明確にし、学習過程で「何を」「いつ」「どのように学ばせるのか」を明確にし、言語活動を充実するための支援を考えれば、児童が主体的に文章を読もうとし、学習したことを確かめたり、深めたり、ひろげたりする伝え合いができるのではないか。

4 研究内容

(1) 学習過程の明確化

学習過程を考えるとときにその単元で学ぶべきことを明確にし、学習過程に位置づけることに努めた。そして、教材文の学習後に取り組みまとめの言語活動までに学ばせたい指導事項を明確にした。

さらに、単元の導入時にまとめの言語活動を示し、そのために、「何を」「いつ」「どのように学ぶのか」という見通しを児童に持たせることにつなげたいと考えた。(資料1)

また、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくという読みの多様性を生むために、単元全体を通して、読みのための言語活動を考えた。(資料2)

(2) 言語活動の充実(活性化)について

①一人読みの観点

国語科の指導事項をふまえた「用語」を選び、参考文献をもとに作成した。(資料3)

「用語」を使って、自分で文章を読むことができるようにした。

学習過程で、「中心人物」「結末」などの「用語」の意味と使い方を学び、あらすじを書き、児童が「用語」を理解し、まとめの言語活動で自分の紹介したい本のあらすじを書くことができることをめざした。

紹介したい本のあらすじを「一人読みの観点」を使って自分で考えた。また、日常の読書でも学習した「用語」を意識して文章を読むことができた。(資料4)

(資料1)

資料1は、学習過程の明確化に関する図表。読みの多様性を生むための言語活動を考えるという流れを示している。図表には、「何を」「いつ」「どのように学ぶのか」という見通しを児童に持たせることにつなげたいと考えたという内容が記載されている。

(資料2)

(1) 学習過程の明確化
～読みの多様性～

資料2は、学習過程の明確化に関する図表。読みの多様性を生むための言語活動を考えるという流れを示している。図表には、「何を」「いつ」「どのように学ぶのか」という見通しを児童に持たせることにつなげたいと考えたという内容が記載されている。

(資料3)

物語文 一人読みの観点
作品を自分の力で読めるために
(中学年用)

資料3は、一人読みの観点に関する図表。10の観点を示している。1. 1つのことか、2. 2つのことか、3. 3つ、物語の説明の順序で、一番ささいに書いてあることか、4. 登場人物、5. 出てくるか、6. どの場面か、7. 登場人物、8. どの場面か、9. どの場面か、10. 感想を書く。

参考文献
『東京書籍新しい国語』の手引き
二瓶行「物語の『自力読み』の力を与えよ」
『基幹学力の授業第23号』
白石範孝『読みの力を育てる用語』
一読解力を支える用語の習得・活用

(資料4)

善段の読書で考えるようになった「用語」

資料4は、善段の読書で考えるようになった「用語」に関する図表。用語の使用頻度を示している。用語には「一番大きく変わったこと」「いつ」「結末」「中心人物」「登場人物」「どこで」「場面わけ」「あらすじ」が含まれている。

「中心人物」「大きく変わったこと」「結末」を見つけるとあらすじが書けます。

②伝え合いの工夫

ア ペア対話

自分の読みを確かめたり、深めたり、ひろげたりするために伝え合いに取り組みたい。そのために工夫を2つ考えた。

○自分の考えの書き方を表す

「自分と同じか、違うということから書き始める」「自分の考えを書く」ということを確認して、ペア対話の後、友だちのノートに対話して考えたことを書くことに取り組んだ。繰り返して取り組むうちに友だちの考えを聞いてわかったことを書くことができるようになった。(資料5)

○話し方のモデルを示す

本時の話し合いについてあらかじめ予想した2つの例を示し、どのような話し合いがいいか考えさせ、ペア対話に取り組んだ。

(資料5)

はじめは、お百しよは弱かった。今は地主はどなったりしているけど、お百しよが言いかえしているから、地主は弱くなってお百しよが強くなった。

〇〇さんの意見を聞いて、わたしは、地主に言いかえしたからと書いていて分かりやすくていいと思ったよ。いっしよだね。

イ 「感想を伝えるときに使いたい言葉」

「感想を伝えるときに使いたい言葉」(資料6)を使った感想の伝え合いの活動に取り組み、児童の語彙の増加・表現をひろげることに取り組んだ。(資料7)

(資料6)

つかいたいことば (中学年用)

つかいたいことば	つかった回数	つかった日
①大切な		
②おすすめ		
③あこがれる		
④感動する		
⑤役に立つ		
⑥感じさせる		
⑦ようすがわかる		
⑧アイデアがよい		
⑨気に入る		
⑩くわしい		
⑪さいこうである		
⑫大事な		
⑬まんぞくする		
⑭目立つ		
⑮手本になる		
⑯わかりやすい		
⑰うれしい気持ちにさせる		
⑱まねしたい		
⑲みごとである		
⑳りっぱ		
㉑うっとりする		
㉒かん心する		
㉓心をうつ		

参考文献

『東京書籍新しい国語』

井上一郎『読解力を伸ばす読書指導』「感想・評価の基本語彙 800語」

文部科学省『学習指導要領 国語編』

(資料7)

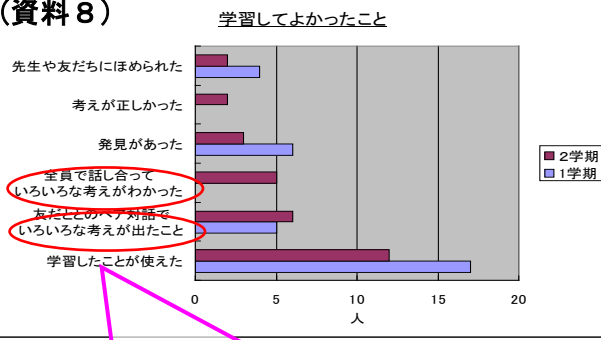
ゆきむすめが動いてどうなるのか楽しみです。上手に説明して書いてわかりやすいです。

ひょうたんに食べられてどうなるのかおもしろそうです。気に入ります。

読んだ本けど、〇〇さんのあらすじを聞いてもう一回読みたくありません。まねしたいです。

なまけものむすめがどうなるのが、楽しみです。〇〇さんと同じだけ説明がちがって読んでみようと思いました。

(資料8)



ぼくは、話し合うことが嫌いだった。でも、友だちと話をすると新しい考えが出るので話し合いが好きになった。

5 研究のまとめ

○「いつ」「何を」「どのように」「どんな言語活動で学ばせるか」を教師が明確に示すことで、児童が主体的に学習に取り組むことができるようになった。

○伝え合いを通して、多様な考えがあることに児童が気づくことができた。(資料8)

○言語活動を充実(活性化)するための支援を考えることができた。

6 今後の課題

○学びを生かす場をどうつくるか

○「一人読みの観点」を進んで使えるような手立てと自分の読みをひろげるための観定の更新

○音声言語による伝え合うための支援

7 おわりに

「一人読みの観点」を使ってあらすじを書いたり、予習のために自主学習をしたりする児童の姿を見て、学習過程を明確にすること、言語活動を充実(活性化)するための支援を考えることは、児童が主体的に文章を読もうとする姿の育成につながる有効なことだと感じた。さらに児童の実態から支援を考える授業実践に取り組みたい。